

みやこんじょ



No.50

発行日 2018年1月1日

発行 独立行政法人国立病院機構

都城医療センター

宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL 0986-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

波濤に向かう

院長 冷牟田 浩司

つつがなく、新年をお迎えのことと存じます。旧年中、関係各位の皆様には大変なご厚情を賜りました。心より御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

実は、この新年のご挨拶は2017年12月22日に認めました。冬至の日です。ご承知のごとくこの日には太陽の位置が北半球で最も低くなり、日照時間が最も短くなります。旧暦では弱まった太陽の力が転じて再びよみがえる日、陰極まり陽帰る、世にいう「一陽来復」の日です。「ん」で終わる食べ物を摂ると力が蘇るという運盛りにあやかって私も苦手なカボチャ（南瓜：なんきん）を食べました。

一昨年、電子カルテを更新したせいか、昨年は一時、入院患者数の減少など診療実績が下がりましたが、下半期以降、ようやく回復しました。しかし、病院経営は予断を許しません。今後も引き続き、診療の質を担保しながら創意工夫が必要と思います。

医療界では2025年の地域包括ケアシステムの構築に向けて着々と準備が進んでいます。昨今の地域包括ケア解説書のタイトルは、数年前の“ロードマップ”から“カウントダウン”へ一斉に書き換えられました。そんな中、地域の中で都城医療センターの果たすべき役割は何か、立ち位置はどうあるべきか、改めて考えさせられた1年でした。

すでに宮崎県でも地域医療構想が策定され、その調整に向けて会議が始まっています。当医療圏でも高度急性期、急性期、回復期、慢性期医療を確実に提供するための必要病床数が将来大きく変動すると予測されています。その構造変化に地域全体でどのように対応するのか、十分な議論調整のために各施設の役割分担と立ち位置を従来以上に明確にしてゆくことが求められます。

そんな中で、昨年11月に公的医療施設等・国立病院機構施設2025プランと称する当院の将来計画を県に提出しています。

従来、都城医療センターは県西で地域周産期医療センターとして高度周産期婦人科医療と地域がん診療連携拠点病院として包括的高度がん診療を担うべき急性期医療の2つの柱として急性期医療、さらに救急告示

病院、地域医療支援病院としての役割を果たしてきました。もちろん、その方針は継続いたします。地域医療構想ではいわゆる回復期医療の病床数が極端に不足するように思います。急性期医療の峠を越えた患者の皆さんを一人でも一日でも早く在宅復帰してもらうためには、必要な回復期医療資源の質と量は並大抵でないように思います。私たちは高度急性期医療の役割分担領域に加え、急性期医療で養ったその経験と豊富な人財を生かし、高い質の回復期医療（高機能回復期医療）を開始し、早期の在宅療養へ、社会復帰へ目指せるように地域に貢献を果たしてゆきたいと考えています。

また、2018年4月には診療報酬、介護報酬の同時改定と第7次医療計画が一斉に開始される、いわゆる惑星直列改定も迫りました。病院経営は一段と厳しくなりそうです。

厳しい病院経営の中での未曾有の医療制度大改革は、私には葛飾北斎が描いた富嶽三十六景の一枚「神奈川沖浪裏」の“波濤”のように思えてなりません。そこには恐竜の牙のような巨大な“波濤”に漕ぎ手たちが果敢にたち向かってゆく姿が描かれています。漕ぎ手の一致団結と船頭の適切なかじ取りがなければ、波濤を乗り越えることはできません。いよいよこの波濤と対決です。地域全体で協力しあい、知恵を出しあい、慎重に議論しながら、私も自施設のかじ取りをしてゆきたいと思います。

しかし、建物がどんなに新しくなっても、医療制度・政策がどう変わろうと、どんなに経営が厳しかろうと、患者の皆さんに「この病院で診てもらってよかったと喜んでいただけるような温かい病院」であり続けたいと思います。その志を忘れないように職員一同、力を合わせてこの波濤に立ち向かってまいります。

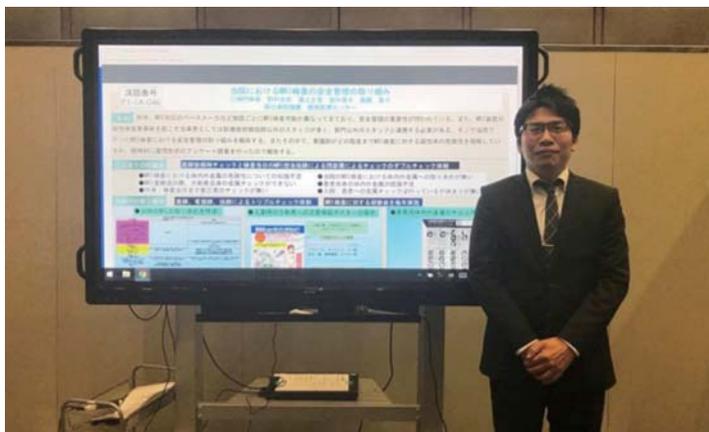
本年もよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



第71回国立病院総合医学学会に参加して

平成29年11月10日、11日に開催された第71回国立病院総合医学学会に参加し、ポスター発表を行ってきました。学会は四国の香川県高松市で行われ、生まれて初めて香川に行くこととなりました。

今回のポスター発表は、事前に発表内容をPDFデータで登録して、70型の液晶モニターを用いるeポスター発表で行われ、こちらも初めてのことでありなかなか戸惑いましたが、なんとかポスターを作成し、発表当日には会場に朝早く行き実際のモニターで操作練習して発表に臨みました。ポスター発表が行われた会場は人で溢れ返っており、各ブースが満員でびっくりしました。演題は「当院におけるMRI検査の安全管理の取り組み」で、当院が行っているMRI検査に対する安全管理とMRIの理解度調査を看護部に行った内容を発表してきました。残念ながら、ベストポスター賞には選ばれませんでした。自分の中では満足できた発表になりました。また、他職種がどのような研究を行っているかいろんなブースを回ることができとても参考になりました。そして、最大の目的である香川の本場のうどんを食べることもできました。来年は神戸で行われるということなので神戸牛を目指して、、、



いや日々の業務の疑問などを解消するための研究を行って、また参加できればいいなと思っております。



(画像診断センター 撮影透視主任 神門 伸幸)

当院の医師事務作業補助者は医療情報管理部に所属しています。

私達は常に業務に応じた教育プランを立てて頂き、研修では医師を始めとする各部門の専門職による講義を継続して受けています。日頃より部内の診療情報管理士と情報共有を図り、日々業務改善を図っています。取り組みへの成果発表は「国立病院総合医学学会」で行っており、今年は香川県へ行ってきました。演題名は「診断書作成補助における精度向上を図るー医師事務作業補助者における生涯教育の必要性ー」です。

今回は『ベスト口演賞!』を戴き、仲間の思いに応えることができました。学会発表にエントリーするようになって4年目で通算2度目の受賞です。日頃から支援して下さっている方への感謝の気持ちを忘れずに、今回の経験を次に生かして、医師事務作業補助者全体のスキルアップへの取り組みを継続していきたいと思います。

(医療情報管理部 医師事務作業補助者 大迫 みえ子)





2017年11月10・11日の2日間にわたり、第71回国立病院総合医学会が香川県のサンポート高松、かがわ国際会議場、JRホテルクレメント高松、レクザムホール、香川県立ミュージアムの5つの施設を利用して開催されました。今学会のテーマは「道 - 明日へ - 国立医療の未来を拓く」で、そのテーマ通り今回から新しい試みとしてeポスターが導入されました。eポスターでは、「リンパ浮腫と疼痛のある患者に対する、リソースナースの協働による継続看護の効果」について発表しました。在宅療養を続ける患者の症状緩和のためには病院と地域で活躍する医療者との連携が不可欠であり、そのためにリソースナースとして病院と地域を結びつける役割があることを発表しました。都城医療センターからは他にも6演題の発表を行いました。学会に参加し他の施設の発表を聞いて得た知識は、新しい閃きや日頃の疑問の解決の糸口になると考えます。今回得た知識を、これからの業務に結び付けていきたいと思います。

(緩和ケア認定看護師 清武 香)

新任医師紹介



氏名：椎葉 望
勤務部署：産婦人科
抱負：地元都城の医療に少しでも貢献できるように頑張ります。よろしくお願いします。



氏名：今村 紘子
勤務部署：小児科
抱負：熊本出身で宮崎に住むのは初めてです。少しでも多くの宮崎の子ども達の役に立てるよう頑張ります。



氏名：平江 健二
勤務部署：小児科
抱負：10月から都城医療センターに赴任致しました。特技はバイオリンです。都城の子ども達が元気に過ごせるようがんばります。



氏名：山元 綾子
勤務部署：小児科
抱負：宮崎生まれ、宮崎育ちです。都城の小児医療に貢献できるようがんばります。よろしくお願いします。

医師対象緩和ケア研修会を開催しました



地域がん診療連携拠点病院として毎年開催しております緩和ケア研修会を10月8日、9日の二日間にかけて行いました。今年度は7名の医師が参加され、積極的にロールプレイやグループワークで意見交換されるなど充実した研修が行われました。参加者のアンケートでも、10項目のセッションで少し理解、十分理解できたと答えた方が71.4%～100%（平均95.7%）おられ、高い理解度でした。これは聖路加国際病院の林



章敏医師をはじめ、講師の先生方から経験を踏まえて実践的な内容を講義していただいたためではないかと考えております。この研修会をきっかけに緩和ケアの実践や、地域の医療者同士の連携を深めるために当院をご活用いただければと思います。来年度も最新の緩和ケアの知識や技術、患者の思いを理解できるような緩和ケア研修会となるよう担当者一同で準備して参りますので是非ご参加ください。

(緩和ケア専従看護師 がん性疼痛看護認定看護師 児玉 みゆき)

消化器合同カンファレンス

H29年10月20日「第5回都城消化器疾患合同カンファレンス」を当院の大会議室で開催いたしました。都城の各施設の内科・外科から下記の6つの症例提示があり、各症例に対し熱心な討論が行われました。なお、終了後は近くの食事処で各施設のスタッフが集まり交流・意見交換会を行いました。



<演題>

1. 高齢者の肝切除 都城医療センター 外科 松村和季
2. 下行結腸憩室穿孔の1例 都城医療センター 外科 杉原栄孝
3. 憩室・DM合併の重複結腸がんの1例 宮永病院 外科 島雅保
4. Bulky N2,N3リンパ節転移のある神経内分泌胃癌の1例
メディカルシティ東部病院 外科 太田嘉一
5. 開腹で除去し得た直腸異物の1例 都城市郡医師会病院 外科 樋口和宏
6. 最近の潰瘍性大腸炎の症例 都城医療センター 消化器内科 藤原利成
(統括診療部長 後藤 又朗)



都城医療センター附属看護学校 **学校祭**

10月20日(金) 21日(土)

学校祭のテーマ『LINK ～心のつながり～』から、患者さん、病院関係者の皆様、地域住民の皆様とのつながり、学生同士、学校全体でのつながりをより大きく力強いものにしたいというコンセプトのもと、企画運営いたしました。そして、この学校祭をとおして日頃から実習や学習、ボランティア活動などのご理解やご協力に対する感謝の気持ちをお伝えし、多くの皆様とともに温かく、和やかな時間を過ごすことができました。

10月20日(1日目)の特別講演では、藤重知子先生に『心が伝わる話し方～自分も相手も大切に作るコミュニケーションとは～』という演題で講演を行っていただきました。今後、看護師、社会人として必要なコミュニケーション能力や身につけておかなければならない礼儀、作法を丁寧にご教授いただき、自分たちの姿勢や行動を見つめ直す機会になりました。また、特別講演をとおして3学年合同で『より良い人間関係の構築』についての学習発表会を行いました。看護学生として日々の生活の中ですぐに実行できるような心がけや行動目標について話し合い、実習においても患者さんや病院関係者との信頼関係を築くための姿勢や態度について振り返る有意義な学習発表会になりました。

10月21日(2日目)は学校の校舎や敷地内でバザー・健康チェック・学校紹介・献血など様々な活動を行いました。体育館内ではステージ部門が中心となり、楽器演奏・歌唱・ダンス・ものまね・ゲームなどを行い、学生の個性が光るステージになり、ご観覧していただいた皆さんにも豊かな音楽の音色や笑顔をお届けすることができました。

2日間をとおして学生一人ひとりが協力し、つながり、充実した思い出に残る学校祭になりました。ご協力、ご支援いただいた地域住民の皆様、病院・学校関係者の皆様に感謝いたします。

今後の学校や実習での学習や来年度の学校祭では今回の経験、反省などを生かし、さらなる飛躍ができますよう精進いたします。本当にありがとうございました。

(学校祭実行委員長 関山 涼重)



誓いの式

クラス全員で自分のなりたい看護師像を考え、誓いの言葉を創り上げました。一人一人の熱い思いや多様な考えから、「患者さんと家族に愛をもって接する看護師」との言葉から、『慈愛』を誓いの言葉とし、患者の痛みに寄り添う優しい看護師としても慈愛のところが大切であると考えました。

知識や技術を身につけるということは自分のなりたいイメージを明確にすることができます。一方で、人々に愛をもって接することは容易ではなく、その決意が揺らいでしまうかもしれません。しかし、そんな時でも私たちは一人ではなく、切磋琢磨する仲間や導いてくれる看護の先輩方、見守ってくれる家族や友人がいます。

今回誓いの式を通して、来賓の皆様、同窓会、病院関係者の皆様、学校職員、そして仲間や家族、全ての人々の支えがあることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。誓いの言葉を胸に刻み、皆様の期待に応えられるよう、笑顔の絶えない立派な看護師に成長していくため、これからも日々精進していきます。

(71回生 大迫 遼佳)



「人の役に立てる職業に就きたい。悩み、苦しんでいる人を助けたい」と思い、目指した看護師は、患者さんの健康を守り、精神面を支えるだけ

だけではなく、命に関わり、命をつないでいく職業であると実感し、その責任の重さを強く感じています。

誓いの式に向け、ナースの看護に対する精神に触れ、看護師としての必要な考え方や心構え、看護において大切なことを考え直すことができました。

私には「ナースの誓詞」の中で好きな言葉があります。「我が手に託された人々の幸のために身をささげん」という言葉を目にしたとき、その考えにとっても感動しました。また、それと同時にこれから出会う患者さん一人ひとりに合った看護を的確に判断し、周りに対する気配りができ、患者さんと家族に安心を与えられるような看護師になるという目標を立てました。自分の目指す看護師像に少しでも近づき、自分の目標を達成できるように、今回誓いの式で仲間と誓った言葉を胸に、焦らずゆっくりと一歩一歩成長し、課題に立ち向かって学び続けたいと思います。

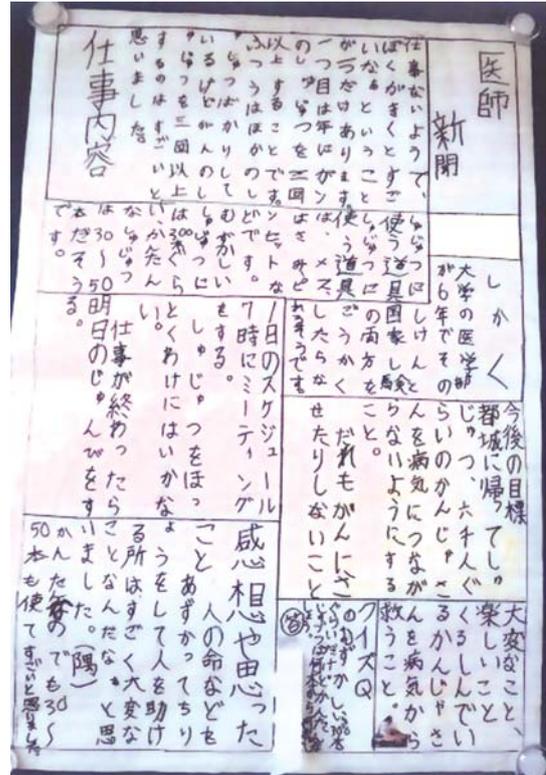
(71回生 松本 遥)



\\ 生徒さん達からお礼状が届きました!! //

『お仕事インタビュー会』が10月19日、20日に祝吉小学校で開催されました。

全国小学校で開催されている「10才のリクルート活動」に、児童の希望した将来になりたい職種の地元専門家として当院から医師と助産師2名が参加しました。生徒さん達から熱の入った質問が飛び交い驚きの連続でした。この度、小学校より沢山のお礼状、新聞記事が届きました。ありがとうございます。この中から将来、宮崎県で活躍する医療従事者が育ってくれば嬉しく思います。



NHO PRESS 国立病院機構通信

National Hospital Organization

都城医療センターは、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という142の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】 受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 30 年 1 月 1 日】

Table with columns for medical department (e.g., Internal Medicine, Surgery, Pediatrics), day of the week (Monday-Friday), and attending physician names. Includes special visits like 'N S T 外来' and '緩和ケア外来'.

【その他の特殊診療】

Table for special services including '内視鏡センター', '透視撮影(胃)', and '骨塩ドック(骨粗鬆症検査)'. Columns show the day and the department/doctor.

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※2 医療機関の方へ:血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
※3 皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時30分~13時となっております。
※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前に相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人 国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・ 地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報委員会